

政・官情報に強い総合経済誌

1988年12月8日第3種郵便物認可
1988年12月8日第3種郵便物認可

Economic
REVIEW

月刊

財界人

2007

10

日本を支える人材作り

拓殖大学学長 渡辺利夫



防災の日 直前企画

首都東京を大地震が襲つたら

消防庁長官 荒木慶司

“進取の精神”で会員と顧客の
利便性を追求し続ける全宅連

ミツカン 企業広告の徹底研究

日本人よ心と体をもっと美しく
(株)シェイプアップハウス

表紙の人／渡辺利夫

日本を支える人材作り

スポーツ支援活動を始めた経緯

田崎 開校から100年以上の歴史をもつ拓殖大学ですが、創立の経緯はどういったものだったのでしょうか。

渡辺かつて日本は日清戦争に勝利し、遼東半島、澎湖諸島、台湾の割譲を受けました。しかしロシア、ドイツ、フランスの三国干渉により遼東半島は返還を余儀なくされ、台湾と澎湖島が日本初の海外領土となりました。日本は開発のノウハウも知識ももっていませんでした。そこで桂太郎公が台湾の開拓と殖民、つまり拓殖のための若い人材の養成の場として台湾協会学校を開学しました。

台湾第四代総督・児玉源太郎の時代の民政長官であり、後に拓殖大学第二代学長となったのが後藤新平です。後藤は台湾の近代化に辣腕をふるった非常にスケールの大きな政治家でした。長い伝統をもち、その分岐らみも複雑な日本国内ではできない新事業を後藤は台湾を舞台に展開しました。

台北の總統府付近には、当時、後藤が海外に飛躍することが建学の精神であったわけですね。

田崎 狹い日本から出て、大きく海外に飛躍することが建学の精神でした。

渡辺私は開発論の専門家です。私が現場主義を貫いていることも少しは影響していると思いますが、貧しい国にこそ高い志で入つていって仕事をしたいという気分が、ことに国際学部の学生には強いですよ。



聞き手——本誌主幹 田崎喜朗

最近の若者は貧弱になったというけれど、それは若者が悪いのか、それとも社会が悪いのか。これから日本の日本を支える逞しい若者を育てるために、教育現場への期待は計り知れないものがある。

開拓・殖民という意味をもつ拓殖大学では伝統的に教育の現場で人づくりに力を注いできた。現在も武道や海外交流を通じて逞しい学生を育てている渡辺利夫学長に、教育論について話を聞いた。

渡辺そうです。第二次大戦後になりますと、ハワイやブラジルへの海外移住者が増えました。海外移住の先陣を切ったのも拓殖大学です。

ブラジルには大企業の駐在員ではなく、まさに草の根に入り込んで定住している拓大OBがたくさんいます。彼らはブラジル日系人はもとよりブラジル人からも尊敬されています。

アジアではインドネシアに拓大OBがたくさん定着しています。2、3年で帰ってくるような駐在型の社員ではなく、現地で事業を立ち上げ、インドネシア人を雇ってそこに定住するというタイプの人々がかなり多く見られますね。そういう人々の中に拓殖大学の伝統が具現されています。

田崎 そういった伝統こそが今の日本で最も足りないもののひとつではないでしょうか。特に若い男たちはそういう氣概をもつてほしいと思います。

渡辺私は開発論の専門家です。私が現場主義を貫いていることも少しは影響していると思いますが、貧しい国にこそ高い志で入つていって仕事をしたいという気分が、ことに

トップインタビュー

また、学生とは教員に教えられて成長するものと考えがちですが、実際には先輩や同級生の背中を見て育つことが多いですね。優れた先輩や武道に限らず、研究団体でも文化団体でも学生相互の緊密な組織活動は大変に重要ですね。

ちょっと驚かれるかもしれません
が、今の学生たちは組織というものを嫌うのか、本当に親しい友人の数が5人とか6人の範囲でしかない。
それ以外の人間とはほとんど付き合
いがないというのが今の大学生の平
均像でしようね。

例えば、私のゼミの学生は17名い
ますが、初めのうちはお互いに名
前を呼び合うこともありませんでした

田崎 そうですか。体育会系は今
に薄く欲しいですね。
でもそうかもしませんが、私の頃
は先輩、後輩はもちろん、同学年間
の結束も非常に強いものでした。拓
殖大学には体育会系の学生をどんど
ん増やしていただきたいですね。

渡辺 ぜひ、そうしたいと思いま
す。また、それだけではなく、武道
を海外に広めていくための人材をも
養成したいと考えています。そこで
どこの学部の中に国際スポーツ専
攻をつくり、そこに30～40人、体育
推薦の学生を入れようと思います。
これには相当のレベルの学生を受け
入れることにしたい。英語やインタ
ーネットなどの基本的なことに加え
て武道の精神をたたき込みたいです。



渡辺利夫（わたなべ としお）
慶應義塾大学大学院経済学研究科博士課程（1970年3月）
経済学博士（慶應義塾大学1980年）
【主な歴史】
1980年4月 筑波大学教授
1988年4月 東京工業大学教授
2000年4月 拓殖大学国際開発学部（現：国際学部）学部長
2004年4月 拓殖大学大学院国際協力学研究科委員長
2005年4月 拓殖大学 学長
【所属学会・協会】
第17期学術会議会員、アミニア政経学会（元理事長）、国際開

渡辺　おっしゃるよう、勇気とか勤勉とか廉恥とか、そういう德目が日本から嘘のように消えてしまっています。でもそれらは武道の中に本質的な要素として組み込まれています。武道に励むことがその精神を同時に学ぶことにもつながります。武道の奨励はどうしてもやつていかなければなりませんね。

た。あまりに他人に無関心なので、これは変えないといけないと思い、名前の入ったプレートをつくつて机上に置き、議論の際には必ず名前を呼び合うようにしつけました。それを半年くらいやつてようやく17人の顔と名前が一致するようになるといった状況でした。私たちの大学時代は友達を求めて大学へ入ったというような感じがありましたが、今はそういうこともなく、人間関係が本当に

せると、2割から3割くらいの学生
はいい顔つきになつて帰つてきま
す。何不自由なく育てられた学生た
ちが自分以外の第三者のために何か
ができたという誇らしさや晴れがま
しい気持ちになつて帰つてくるのだ

員とダルマ・ブルサダ大学の教員が一緒にになつて貧困地域の開発に当たる事業を始めました。ダルマ・ブルサダ大学はジャカルタの郊外にあります。ジャカルタの周辺部には出稼ぎに来ても働く職場のない人々が住

学生は仲間の背中を覗いて育つ

いと思いますね。今の学生も良いことをしたいといふ気持ちは非常に強くもつていま
す。しかし狭い日本においては困つて
いる人も弱い人もいるには違いない
けれど、なかなか彼らの目にこれが
入つてこない。そういう学生たちを
例えばマニラで1ヶ月くらいホーム
ステイさせ、現地の信頼できるNG
Oと組んで一緒にストリートチルド
ン(=店)、スミーティア、

と思ひます。そういう学生の多くがリピーターになりますね。バイトしてためたお金で現地に行き、同じように戦って帰ってきます。

田崎 拓殖大学ではそういったホームステイ支援を学部に関係なく行っているのですか。

渡辺 短期研修が中心です。現場で仕事をさせることで初めて生まれる、教室での勉強との相乗効果が非常に大きい。拓殖大学らしい教育の

卷之三

度の濃い事業ができるようになりますから、一段と密度では大変なお金ですから、一度した。

マツテイリョウカイ）が、拓殖大学では面白い事業をしていると気づいてくれて、草の根技術協力事業に認定され、年間1千万円を3ヵ年連続で出していただきました。年間1千万円といえば、インドネシアの農業生産を支える大企業です。

卷之三

うなことになるのだと思いま
す。つまり私どもが、貧困で未開発の地域
に入つていき、現地の人づくりに協
力して富を生み出し、その富がその
社会に回り始めることでそこに住ま
う人々が自立していくこと。そう解
釈して、そのための協力に熱い情熱
をもつ人材を養成していきたいと考
えて います。

変でしたけど、今は安い航空運賃で簡単に行けますから、机上での教育と現場での教育をドッキングさせることがあります。これなどは拓大精神に見合う教育方法だと私は思いま
すね。

田崎 机上で終わらせない立派な人づくりですね。

渡辺 まさに人づくりです。拓殖大学の開拓・殖民という言葉を現代の状況の中で編集し直すと、次のよ

財界人 2007 · 10月号

トップインタビュー

実践教育で政治家を育てる

す。

戦後の左派的な思潮の中で、日本の近現代史はネガティブな価値しか与えられませんでした。日清戦争の時の外務大臣は陸奥宗光、日露戦争の時は小村寿太郎、その両方を支えてきたのが伊藤博文という稀代の政治家。こういう人たちの文献はすべて揃っているのに、それを本格的に教えるような政治学は日本の大學生にはほとんどありませんね。政治学のバックボーンをつくりたい。

田崎 昔の政治家はスケールが大きくて非常にたくましさを感じさせましたが、今の政治家はまるでサラリーマンのようです。今こそ質実剛健を旨とするこの拓殖大学からどんどん国会議員が生まれてほしいものです。そこで学部の中に政治家をつくる専科をつくらってはいかがですか。

渡辺 実は今、そういう構想を私はもっています。私はいすれ道州制が成立すると思っています。地方分権化の流れはもう止めることができません。地方に優れた人間がないと日本という国は成り立ちません。日本は伝統的に分散型社会で、地方にたくさん優れた人がいたから明治維新にも成功したわけですね。やはり地方が強くないと本当に足腰の強い日本はできない。地方の政治行政のための研究科をつくる構想をもっています。

地方の行政者を育てると同時に、地方の政治家も育てたい。地方政治行政研究科です。ここでは例えば、政治については選挙の仕方から始まっています。

茅原郁生先生のようなきわめて優れた中国軍事学のプロフェッショナルも出ています。安全保障論はハードウェアをちゃんと勉強しないと話にならないというのが私の持論です。できるだけハードに強い人を集めて研究科を強化したいですね。

田崎 これは経営面でも非常に大切だと思いますし、特に国会議員の方たちにこういう勉強をしてもらわないといけません。この厳しい国際社会の中で日本のリーダーとなる人には、軍事学に対する基礎的な知識が変わることになりますが、今後の学校経営に関する抱負などを聞かせてください。

渡辺 私のキャッチワードに「東京大学や京都大学、早稲田大学や慶應義塾大学が変わつても日本は変わらないが、拓殖大学が変われば日本が変わる」というのがあります。拓殖大学の学生は日本の学生のいわば平均像ですが、平均像とはつまり数が一番多い。拓殖大学が変わればそれがモデルとなり、日本の大学の全



国際協力学研究科があり、その中の一本の柱が私の研究している国際開発、もう一本の柱が安全保障です。

実は安全保障を柱にした大学院の設置は不思議なことに日本では初めての試みなのです。

ここは茅原郁生先生をリーダーにして、安全保障の専門家を非常に厚く集めているのですが、彼の下に同

じ程度で、本当に変化したとは思えないですね。

田崎 それについて軍事学という学科を作ることを考えたことはありませんか。世界の一流大学にはどこも軍事学を教える学科があります。

渡辺 実は拓殖大学の大学院には徹底的に学んでもらう必要がありま

ね。具体的に政治家を志して選挙に出る人たちにとって、現在各大学が教える政治学部の各学科は何の役にも立ちません。そういう実践的な教育をしていただき、拓殖大学から大いに質実剛健でスケールの大きな政治家を出していただきたいと思います。

渡辺 私の理想は日清・日露戦争開戦前夜の日本の政治家たちです。彼らはピントの判断ひとつ誤れば国が滅亡するというよつ過酷な状況の中で鍛えられた人たちですね。開国維新期から日清・日露戦争に至るまでの政治家、オビオンリーダーたちが何を論じ、どう行動したのかという、近現代の思想史を徹底的に学んでもらう必要がありま

す。単に偏差値で学生を求める時代は終わつたと思います。やはり拓殖大学の建学の精神に沿うような、逞しい人間に育てていくための大學生像を世にアピールしたい。タフな学生を入学させ、育てたいですね。

私は学長就任以来、毎日のように教員に新入生教育の重要性を説いていました。大学は社長命令で決まる企業と違い、教員の合意を積み上げていく時間が長くかかります。2年を要しましたが、全学部の新入生全員を新入生ゼミに組み込むことに成功しました。時間はかかりましたが、かかるに値するテーマだったと思っています。1年生の前半期に学生の心をつかまないと、4年間をまつとうできません。逆にこの時期に心をつかむことで良い学生が多数生まれます。

日本の大学改革のモデルがここにあると思いつつ、私は仕事をしています。拓殖大学のマネジメントはもちろん一所懸命やりますが、志としては日本の大学を変えるという気持ちです。

また、今は18歳人口が急速に減つていい時代ですから、どこの大学でもそうですが、できるだけいい学生を一定量確保することが経営上は決定的に重要なテーマになっています。

日本の小中高の教育が崩壊しています。大学に来てから今までと同じように100%とすれば、1年の前半にそのエネルギーの50%を使ってほしきいうわけです。

田崎 今日は非常にいいお話をうかがうことができました。拓殖大学で育った学生が近い将来、日本を支えてくれる人が来ることを大いに期待します。本日はありがとうございました。

拓大が変われば日本が変わる

田崎 最後になりますが、今後の

渡辺 学校経営に関する抱負などを聞かせてください。

渡辺 私のキャッチワードに「東京大学や京都大学、早稲田大学や慶應義塾大学が変わつても日本は変わらないが、拓殖大学が変われば日本が変わる」というのがあります。拓殖大学の学生は日本の学生のいわば平均像ですが、平均像とはつまり数が一番多い。拓殖大学が変わればそれがモデルとなり、日本の大学の全

体が変わっていくということです。

日本の大学改革のモデルがここにあります。拓殖大学のマネジメントはもちろん一所懸命やりますが、志としては日本の大学を変えるという気持ちはあります。

また、今は18歳人口が急速に減つていい時代ですから、どこの大学でもそうですが、できるだけいい学生を一定量確保することが経営上は決

をもつてもらうことが大切です。

渡辺 もうひとつ言えば、企業などのミクロ分野の危機管理、それから地方自治体の危機管理を専門とするプロフェッショナルも育てたい。国家安全保障にはじまり、ミクロの自治体や企業の安全保障に至るまで、研究科を重層的に立てていくつもりです。もう單なる海外事情一般をひとつの研究所で引き受けける時代は終わりましたね。拓殖大学の「海外事情研究所」も森本敏先生の努力でそのような分野での実践的な分析家を育てています。

茅原郁生先生のようなきわめて優れた中国軍事学のプロフェッショナルも出ています。安全保障論はハードウェアをちゃんと勉強しないと話にならないというのが私の持論です。できるだけハードに強い人を集めて研究科を強化したいですね。

田崎 これは経営面でも非常に大切だと思いますし、特に国会議員の方たちにこういう勉強をしてもらわないと日本は変わらないといけません。この厳しい国際社会の中で日本のリーダーとなる人には、軍事学に対する基礎的な知識

は終わつたと思います。やはり拓殖大学の建学の精神に沿うような、逞しい人間に育てていくための大學生像を世にアピールしたい。タフな学生を入学させ、育てたいですね。

私は学長就任以来、毎日のように教員に新入生教育の重要性を説いていました。大学は社長命令で決まる企業と違い、教員の合意を積み上げていく時間が長くかかります。2年を要しましたが、全学部の新入生全員を新入生ゼミに組み込むことに成功しました。時間はかかりましたが、かかるに値するテーマだったと思っています。1年生の前半期に学生の心をつかまないと、4年間をまつとうできません。逆にこの時期に心をつかむことで良い学生が多数生まれます。

茅原郁生先生のようなきわめて優れた中国軍事学のプロフェッショナルも出ています。安全保障論はハードウェアをちゃんと勉強しないと話にならないというのが私の持論です。できるだけハードに強い人を集めて研究科を強化したいですね。

渡辺 もうひとつ言えば、企業などのミクロ分野の危機管理、それから地方自治体の危機管理を専門とするプロフェッショナルも育てたい。国家安全保障にはじまり、ミクロの自治体や企業の安全保障に至るまで、研究科を重層的に立てていくつもりです。もう單なる海外事情一般をひとつの研究所で引き受けける時代は終わりましたね。拓殖大学の「海外事情研究所」も森本敏先生の努力でそのような分野での実践的な分析家を育てています。

茅原郁生先生のようなきわめて優れた中国軍事学のプロフェッショナルも出ています。安全保障論はハードウェアをちゃんと勉強しないと話にならないというのが私の持論です。できるだけハードに強い人を集めて研究科を強化したいですね。

田崎 これは経営面でも非常に大切だと思いますし、特に国会議員の方たちにこういう勉強をしてもらわないと日本は変わらないといけません。この厳しい国際社会の中で日本のリーダーとなる人には、軍事学に対する基礎的な知識

は終わつたと思います。やはり拓殖大学の建学の精神に沿うような、逞しい人間に育てていくための大學生像を世にアピールしたい。タフな学生を入学させ、育てたいですね。

私は学長就任以来、毎日のように教員に新入生教育の重要性を説いていました。大学は社長命令で決まる企業と違い、教員の合意を積み上げていく時間が長くかかります。2年を要しましたが、全学部の新入生全員を新入生ゼミに組み込むことに成功しました。時間はかかりましたが、かかるに値するテーマだったと思っています。1年生の前半期に学生の心をつかまないと、4年間をまつとうできません。逆にこの時期に心をつかむことで良い学生が多数生まれます。

茅原郁生先生のようなきわめて優れた中国軍事学のプロフェッショナルも出ています。安全保障論はハードウェアをちゃんと勉強しないと話にならないというのが私の持論です。できるだけハードに強い人を集めて研究科を強化したいですね。

渡辺 私のキャッチワードに「東京大学や京都大学、早稲田大学や慶應義塾大学が変わつても日本は変わらないが、拓殖大学が変われば日本が変わる」というのがあります。拓殖大学の学生は日本の学生のいわば平均像ですが、平均像とはつまり数が一番多い。拓殖大学が変わればそれがモデルとなり、日本の大学の全

体が変わっていくということです。

日本の大学改革のモデルがここにあります。拓殖大学のマネジメントはもちろん一所懸命やりますが、志としては日本の大学を変えるという気持ちはあります。